

# らい 来ぶらり 26

## PART 1

**Q：ここでは資料が見つからないのですが？**

**A：そう簡単にあきらめないで！**

やっぱり学習院にはない……。どうしてもほしい本をあきらめてしまう前に、参考係に相談してみよう。どこかほかの図書館等で所蔵していないかどうか調べる手だてがありそうだ。直接所蔵館へ見に行ったり、複写をしてもらうために必要な手順、所蔵調査から紹介状発行、文献複写、借り出しまで、他機関利用の方法を連載でお知らせしましょう。

### ( 所 蔵 調 査 )

**Q：学習院では資料が見つからないのですが、どうしたらよいのでしょうか？**

**A：まず、どこかほかの図書館等で所蔵していないかどうか調べましょう。調べ方は雑誌と単行本では異なります。**

**Q：雑誌の所蔵館の調べ方は？**

**A：『学術雑誌総合目録 和文編 1985』『同 欧文編 1988』が国内の所蔵館を調べる代表的なツールです。国立国会図書館に限るならば、『国立国会図書館所蔵 国内逐次刊行物目録』『同 欧文雑誌目録』を見てください。**

**Q：和書の単行本の所蔵館の調べ方は？**

**A：慶応3年までのものなら、まず『国書総目録』を見てください。さらに国文学研究資料館の『国文学研究資料館蔵マイクロ資料目録』も見て**

ください。ここは国内、外国で所蔵している貴重な資料を次々とマイクロ化していますので、運が良ければ、外国など遠方に複写依頼を出さなくても、都内で資料にお目にかかることができます。

明治以降のものについては、『学術雑誌総合目録』や『国書総目録』のような総合的なツールがありませんが、国内で発行されたものは原則として国立国会図書館にそろっているはずですから、『国立国会図書館 蔵書目録』を見るのが一番手早いでしょう。そのほかの図書館の所蔵を調べるのでしたら、参考室にある早稲田大学や都立中央図書館等の個別の蔵書目録を片端から調べてみてください。

♡「ケンブリッジ大学で所蔵している狂言本のコピーがほしいのですが」と、院生が文献複写の依頼に来ました。日本の本の複写をなぜ外国へ依頼しなければいけないのだろうかという少しばかりの悔しさも手伝って、なんとかして国内で見つきたいと思い、『国文学研究資料館蔵マイクロ資料目録』を探したところ、同館が数年前にケンブリッジ大学へ出

かけていって、その本のマイクロフィルムを作成して所蔵していることがわかり、国内で利用できたということがありました。

☪ 『国書総目録』に『如意君伝考證』は東北大学狩野文庫所蔵と載っていますが、『如意君伝』は見当たりません。どこか所蔵している所はありませんか？との相談を受けました。

東洋文庫、静嘉堂文庫等の目録でも『如意君伝』は見つかりません。念のため『東北大学附属図書館別置本目録』を調べましたところ、狩野文庫秘書の部に『閨娛情傳題箋如意君傳』とありましたが、「如意君伝考證」の記載はどこにもありません。つまり、東北大学は『如意君伝考證』ではなく、『如意君伝』を所蔵していたというわけです。

『万有百科大事典』によると、『如意君伝』は明朝時代の代表的好色文学とあります。この手の本は個人所蔵が多く、所有者を捜すのは困難なのですが、この場合は運よく見つかり、東北大学あてに複写依頼を出すことができました。

なぜ『国書総目録』に『如意君伝』が『如意君伝考證』と載っているのか、その理由は不明です。

Q：では、洋書の場合は？

A：まず『新収洋書総合目録』を見てください。これは1949年以降、国立国会図書館と主な国立大学、早稲田大学、慶応大学等国内50余の図書館で受け入れた洋書の目録で、古い本も載っています。対象館に限られていますから、限界がありますが、国内の所蔵についての総合的なツールはこれしかありません。これで見つからなかったら、参考係に相談しながら、参考室にある各館個別の蔵書目録（数は少ないですが）を探してください。

Q：それらの目録を探す際に何か注意することはありますか？

A：所蔵調査をする前に、アメリカの『National union catalog』で標準的な目録の形を確認しておいた方が能率的に探せる場合が少なくありません。求めている資料が引用されている形と蔵書目録に載っている形とでは、著者名の表わし方が異なっていることがあるからです。

Q：やっぱり見つかりませんでした……。

A：参考係に頼むと、国内の図書館にファックス、往復葉書、電話、オンライン検索等によって、所蔵調査をします。和書の場合も同様です。

Q：それでも見つからなかったら、あきらめなければいけませんか？

A：『新収洋書総合目録』などを調べても、ほかの図書館へ問い合わせても見つからず、どうも国内にはないようだ、けれどもどうしてもほしいという場合、アメリカなら当館蔵『National union catalog』を見て下さい。イギリス、フランス、ドイツ等その他の国の所蔵については、本学にそれらの国の目録がありませんので、国立国会図書館にある冊子目録を見に行ってもらうほかありません。それを調べた上で、図書館2階カウンターで複写依頼の申し込み手続きをしてください。但し、貴重書である等の理由で複写を断られることもあります。

Q：もっと簡単に所蔵館を調べる方法はないのでしょうか？

A：数年前から学術情報ネットワークで、単行本の全国規模の所蔵データベースを作っています。国立大学を中心に1989年5月現在、和書80万件、洋書140万件の所蔵データが入っています。当館では、参考係が端末機を使って代行検索します。けれども、現在のところあまりヒットしません。今の勢いでデータが増え続ければ、あと10数年で、どこで何を所蔵しているのか調べるのに、これを検索すればわかるようになり、あちこちの蔵書目録を繰らなければならないような現在の苦労はいらなくなるでしょう。将来を期待したいところです。

## (紹介状の発行)

Q：資料の所蔵館がわかりました。どうすればよいのですか？

A：所蔵館へ直接行って閲覧する場合は、図書館2階カウンターで相手先あての紹介状を発行します。発行には学生証が必要です。文献複写依頼をすることもできますが、これについては次号で詳しくお知らせします。所蔵館が東京近辺の場合は原則として直接行ってもらいます。

Q：相手先では資料のコピーをとることができますか？

A：個人が私的利用の目的でコピーをとる場合、出版されたものであれば、個々の図書館の判断によりますが、貴重書等特別な事情がない限り、可能ではありません。図書館間の文献複写という形をとる場合は、著作権法上のいろいろな制限がありますので、東京近辺ならやはり紹介状を持って行って、自分でコピーをとってくるのがよいでしょう。

Q：相手先へ行く際に注意すべきことなどあったら、教えてください。

A：行く前に参考係を通して、相手先に所蔵の有無や所蔵部署を確認してもらうとよいでしょう。蔵書目録には載っているけれど、所在不明だとか、長期貸出中だとか、製本中だとか、こんな場合がないわけではありませんから。

次によく利用している先輩からのアドバイスを紹介しましょう。

①相手先の開館日、開館時間を確認しておくこと。入学試験期間中の閉館や昼休み、夜間の開館についても確認しておいた方がよい。昼休みや夜間には貸し出しをしない所もある。

②所蔵部署をきちんと確認しておくこと。分館に移管されていたり、研究室所蔵だったり、2度手間をとることになりかねない。

③1日かけてゆっくり行った方がよい。コピーをとる時間も考えて。館内でコピーをとれなかったり、試験期間中でコピー機が混雑していたりということがある。コピー代も忘れずに持参のこと。



④参考係にキャンパスマップを見せてもらって、相手先の場所や道順を確かめておくこと安心。

⑤学生証を必ず携帯すること。

Q：すべての図書館に紹介状が必要なのですか？

A：国立国会図書館（入館資格：20才以上、但し、20才未満の大学生は所属大学図書館の紹介状があれば、入館可）、公共図書館、国文学研究資料館、特許庁万国工業所有権資料館、日ソ図書館、ブリティッシュカウンシル図書館、東京アメリカンセンター図書室などは紹介状を必要としません。

『多田院開帳』という浄瑠璃本を閲覧するために早稲田大学図書館へお邪魔した。

まず、入口受付で学習院大学図書館からの「紹介状」を提出して「臨時閲覧証」を作ってもらった（早稲田の場合、この時に印鑑が必要）。そして、図書館に入り見たい本の分類番号を調べる。『多田院開帳』は近世に出版された絵入本であるため、特別本に指定されていた。図書館内の「特別資料室」へ行き閲覧の申し込みをする。特別本は申し込みをした翌日以降でないと見せてもらえず、さらにもう1通、指導教授からの「紹介状」も必要とのこと。かくて早稲田へ2回通って、やっと『多田院開帳』に直面する事ができた……。

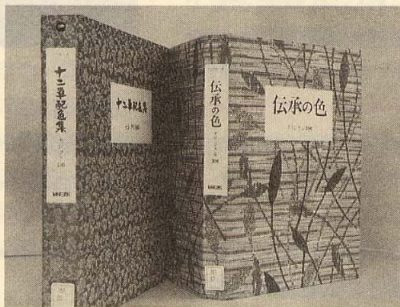
様々な手続きを踏むのは、少々面倒であるが、他機関を利用する際に忘れてならないのは「貴重な本を見せて頂く」という気持ちだと思う。（国文学専攻 博士後 森谷裕美子）

あなたは、何色が好きですか。

私たちは、カラー時代と呼ばれるのにふさわしく、数えきれないほどの色に取り囲まれて暮っています。音楽を聴くことが好きな人がいるように、私は「色」を見ることが好きです。毎朝、「今日は何の服を着ようか」と服を選ぶ時、色の取り合わせをあれこれ迷うのも楽しみの1つだという女性も、私のほかに数多いことでしょう。また、おしゃれな男性が増えたいま、同じ楽しみを持つ男性も少なくないでしょう。しかし、好む色は文字通り十人十色です。なぜ人によって、同じ色に対して違った印象を持つのでしょうか。また、さまざまな色に対してもそれぞれ異なった感情を抱くのでしょうか。これらの問題は心理学の分野で研究されています。

「色」の好きな方へのお勧めの本に、色の見本帖といったものがあります。なかでも『伝承

## 「色」の世界へ



の色』(谷川順一著 当館所蔵)は、日本古来から伝えられてきている色の見本帖で、1ページ1ページ丹念に眺めていくと、時のたつのも忘れてしまいます。次のページにはどんな色が出てくるのだろうと、ページをめくる楽しみがあります。さまざまな色とそれが持つ伝統色名からも、日本の色彩文化の深さがう

かがい知れます。「瓶覗(かめのぞき)」がどんな色か想像できますか。また同著者の『十二単配色集』は平安朝の貴族が着ていた十二単の配色見本です。古代の人々は襟元に何色も色を重ねておしゃれを競い合っていたでしょう。現代人の感覚にもこれらの伝統が受け継がれ

ているようです。この本を眺めていると王朝貴族の雅の世界が彷彿とします。

「色」には人にさまざまなことを連想させる魅力があります。誌上でこの「色」をお見せできないのが残念です。是非ご覧になって下さい。(和書係 小林邦子)

## 編集後記

### ただ今、来ぶらりビデオ、セミナー休止中!

#### 「大学図書館からのお知らせ」

▽既にご存知の方もいると思いますが、土曜映画会、自由鑑賞などで、みなさんに利用していただいたビデオコーナーが、図書館の事情で、本当に突然ですが、今年度から当分のあいだ休止致します。△

同コーナーを利用して開かれていた「来ぶらりセミナー」も同様の運命をたどりました。ともに5年の実績と経験を誇っていたものです。では、

なぜこれらを休止にしなければならなかったかという、事務室移転の問題がありました。背景には、資料の増大と業務の質的变化が、図書館の物理的スペースの拡張を避けたいものにしたことが挙げられます。ここで改めて休止のお詫びをするとともに、ユーザーのみなさんの長年の熱い支持と利用に対して心から感謝致します。

さて、今回は一大特集記事を組みました。次号27号は続編PART2の予定です。ご期待ください。

来ぶらり No.26 1989年7月1日発行

発行責任者：高本 進 編集委員：鈴木宗一 工藤晶子

学習院大学図書館 〒171 東京都豊島区目白1-5-1 ☎(986)0221